

健康な白い歯でおいしく笑顔の食事を

うきま歯科医院 院長 大村 明子さん

「口の健康は心の健康。みんなに思い切り白い歯で笑顔でおいしく食事をしていただきたいですね」。そう患者への思いを話すのは「うきま歯科医院」院長、大村明子さん。コロナ禍以降、口腔環境を悪化させてから来院する患者が増えている。そのために治療環境を整え日々、患者の話に耳を傾けている。「来院して良かったと患者さんに思っていただけるベストの治療を目指しています」と、医療技術の研鑽(さん)に励み、歯科医師としての謙虚な気持ちを持ち続けている。

「人生100年時代」と言われるが健康長寿のために歯の健康は欠



かせない。

「食べることは生きること。『口の福』は幸福のもと。健康な白い歯で、おいしく笑顔で食事できることが元気の源。『患者様は家族』の思いでお口の治療をさせていただいております」と健康的な白い歯をのぞかせ優しく語りかける。

2020年のコロナ禍以降、大村が気にしているのが、口腔環境を悪化させて来院する患者が増えたことだ。「家で甘いものを食べる機会が増え、お子さんの虫歯が増えています。『食育』と予防歯科が大切」と口腔環境を整える大切さを強調する。

歯の治療の技術は自覚ましく進化している。大村はいつも「歯科医師としてもつともっと上手になりたい」と日々研鑽を積み、歯科医の学会にも参加する一方、夫で歯科医師でもある基守さんを「私の師匠。夫から教わるのが一番適格」と慕う。

大村は2020年9月、日本老年医学会（関東地方会）で演題名「オーラルフレイルと新型コロナウイルス感染症」で発表。これをきっかけに、長男から論文の発表を勧められ、一念発起。アドバイスを受けながら2年間に2本の論文を発表し、手応えを得た。

歯科医を目指したのは37歳。歯科医師としてのスタートは43歳と遅かつた。もともと私立大学文系学部を卒業後、22歳のときに日本大学松戸歯学部の講師だった夫と出会い、意氣投合。初めて心惹かれるものを感じて結婚へ。その後、長男卓也さんが2歳のとき、夫がおむら歯科医院を開業。男の子2人の子育てをしながら院の医療事務や歯科受付を手伝っていた。

そして、長男の中学校受験。「そのとき私も一緒に勉強したことがあつたが、もう一度大学に行きたい」と10歳年上の夫に相談。すると、「僕の母校の日本大学松戸歯学部の編入試験を受けたら。やるからには寝ないで勉強しなさい」と叱咤（しった）激励され、仕事、家事をこなしながらも受験勉強に没頭。そして、32人の受験者の中で、合格者5人という狭き門を突破した。

向学心に燃えて入学したが歯学部の勉強は講義と実習の日々でハードな毎日。「通学電車の中で新聞に顔を隠して泣くこともありました」。そんなとき、心の支えになつたのが、夫と息子2人のサポートだった。その息子たちも、長男の卓也さんは医師として糖尿病の治療を研究。次男の侑也さんは母校の大学職員となり、自ら

の道を歩んでいる。

「先生に診てもらつて良かった」。いつも、こう言葉をかけられたとき、「歯科医師冥利」を実感する大村。通院患者の中には、子どものころから通ってくれている人や、引っ越ししてからも遠方からわざわざ通院してくれる人もいる。

「人間、誰しも笑顔でいたい。しかし、口がきれいでなければおいしく食べることもできない。それで暗い気持ちになると、『福』も逃げていく。そんな人をひとりでも減らしたい」。幸福は『口の福』からという信念は強い。

そして、未来を担う子どもたちに対し、「やってみたいというピュアな気持ちに蓋（ふた）をしないで」とメッセージを送る。大村自身、中学受験に失敗し、高校3年間は友人と一緒に映画鑑賞した米映画『サタデー・ナイト・フィーバー』（1977年製作）の主人公ジョン・トラボルタに魅了され、『ダンス漬け』の毎日を送り、学業的には『落ちこぼれ』状態だった。「そんな私でも43歳で歯科医師になることができました。自分に上限を決めないで」とアドバイスする。

夫とともに別々の開業医として忙しい日々を送る大村。休みの日に、長男の孫娘

と一緒に近くの公園で遊んだり、好きな料理を作つて家族や院のスタッフと一緒に食べたり、みんなの笑顔を見るのが至福のひととき。

夫については「仕事一筋で自由奔放。頼りがいがあり、家の司令官」と尊敬する。一方で、夫からは「『君より素直な人はいない。資質かなあ』」と互いに認め合う「おしどり夫婦」だ。

JR埼京線北赤羽駅近くで歯科医院を開業。院のスタッフはすべて女性で務めている。治療方針は、できる限り歯を残せる治療を推奨。ホワイトニングでは、体に悪影響のない薬品を使い、歯を削らない方法を取り入れている。

医療法人社団 寿明会 うきま歯科医院 東京都北区浮間3-2-16 エスピール2階 TEL 03-5392-1331